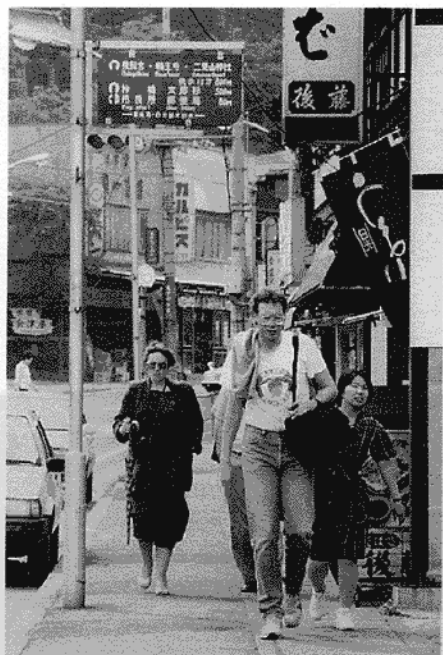


# 国際観光都市へ

## 向かって……



〔街を行く外国人のために整備した道路標識〕

昨年六月、県内九市町村を対象に、運輸省から「日光・宇都宮国際観光モデル地区」の指定を受け、斎藤日光市長を会長に同モデル地区推進協議会が発足。「国際化時代の『新しい』旅の創造」を目指して、①地域性豊かな魅力ある国際観光の拠点整備とネットワーク化②国際的な快適さともてなしのある受入れ体制の整備③外国人観光客誘致・宣伝活動の展開を基本計画に据えた、地区整備五カ年計画もまとめられました。

こうした動きを受けて、同モデル地区の中核である日光市でも、「外国人観光客が安心して一人歩きできる環境づくり」のために、今、いろいろの試みが進められています。今号では、そうした動きを追ってみました。

### 善意通訳グループ

#### 日光SSGクラブが誕生

日光を訪れる外国人観光客は、年間およそ二十万人といわれます。外国人観光客に安心して旅行を楽しんでもらおうと、市の呼び掛けに応じ、三十二名の会員による善意通訳グループ「日光SSGクラブ」が誕生しました。

SSGは、システムチック・グッドウイル・ガイドの頭文字をとったもので、国際観光振興会を中核に、全国的に広まりつつあるボランティア組織です。

日光SSGでは、七月中旬頃から日光郷土センターと東武日光駅内の「I」案内所を中心に活動することになり、今後の活躍が期待されます。



〔東中のLL教室での授業。同校には、ジャズチャントという英語の歌を歌うクラブも生まれています〕

### 英語教育に威力

#### 東中に整備された 英語学習機

エルエル  
『LL』

ーンを通して、生徒が生徒の英語を耳から学べ、自分の発音を確認できるほか、教師からは生徒一人ひとりの発音を聞き分けることができるなど、多様な機能で学習効果をあげることができるとのことです。

昨年十一月に東中学校に約一千万円の費用で整備された語学演習機「LL」が、学校での英会話教育に効果をあげています。LLとは、ランゲージ・ラボラトリーの略で、ヘッドホ

日光市では、本年度は日光中学校にも導入を予定しており、本市独自のソフトの開発などで、二十一世紀に生きる子供たちの英会話教育に、飛躍的な効果をあげるものと期待されます。